

## 研修生への期待

日本芸術院会員 研修所顧問 武腰 敏昭氏

美術工芸の中で、縄文時代より今日迄、長年に亘り、人々の生活空間の中で生まれ、その姿や様式を変え、何千年もの時代を超えて来たのは焼物だけである。

石川県の特産品でもある九谷焼は、江戸初期から現在に至る迄、様々な色絵技法が先人の陶工の方々の並々ならぬ努力により生まれ伝えられてまいりました。



昭和59年に開設されました九谷焼技術研修所からも、これ迄多くの研修生が卒業し優秀な陶工として各地で活躍しております。

この九谷焼技術研修所は全てに於いて完全な設備と多くの優れた講師の先生方により、成形から色絵手法全般を学び、習得する事の出来る石川県唯一の研修所であります。

創作に最も大切なのは、技術、感性、それに創造しようと思う意欲である。

研修生の皆さんには、それぞれの中に潜在する長所を生かし、この恵まれた九谷焼技術研修所の環境の中で、色々な技術を学びとり、独自の個性溢れる色絵磁器を作り出し、更なる未来への九谷焼の発展と向上の為の礎を築いて戴く様、心より期待し願望致したいと思います。

## 「デザイン支援事業に思う」

◇◇ 産地外応援団から ◇◇

研修所講師 陶芸家 伊藤 慶二氏

研修所のOBで独立して間もない人たちのデザイン、技術面で問題をかかえている彼等を対象に「デザイン支援事業」として道標になる指導ができればと行っている企画である。他の地場産業でみられる後継者育成をしている機関でもあまり類を見ない試みではないか。

内容は参加者が各自それぞれの「テーマ」、「試作後の作品の展開」、「市場開発」等を提出し、そのアイデアにもとづいて具体的に目鼻をつけ、「かたち」にする事を毎回提出される試作品を検討しながら、受講者とマンツーマンで行っている。

器に対する可能性、態度には個人差はあるにしろその基本に立脚した姿勢が必要である。

研修生・職員オールキャスト2011です



研修所での勉強は意識する事なく、自然と色・文様に対する感覚が養われる「まわりの環境」がある。それは九谷の色・文様に対する伝統がそうさせるのではないか。

デザイン支援事業検討会から

研修所には多くの焼ものに関係する蔵書があり、本から得る知識は何年来培ってきた技術、表現方法、文様の様式等ほとんどの事が出つくしていると思われる。各個がもう一度先人たちの仕事を掘り起してみても大切ではないか。そうする事が新しい「もの造り」につながると思う。



私事ではあるが50数年前に焼ものを始めた動機は、自作の器が中心に周囲のものがデザインされる、たとえば湯呑、それが置かれるテーブル、椅子そして室内空間（インテリア）とどんどん展開していく楽しさは個性の発見、表現にもつながって行くものである。今も食器棚に当時のものがあり変わりなく使っている。あきる事なく使えるとはそれぞれが基本に忠実であるからあると思う。その事がよりよく器の世界を知る事にもなる。古典から得た知恵はつぎのものへのステップアップになる。

## 【平成24年度研修生募集中！】

これからの九谷焼を担う、意欲のある方の紹介・仲介をお願いします。

進学相談会会場

本科（2年制）  
研究科（1年制）  
実習科（週1日）

詳細は研修所までご連絡ください。



# 元気で活躍している卒業生・OB！

## 「デザイン支援事業成果展に参加して」

第9期生 稲積 佳谷さん



今春、成果展が実現することとなり、一年かけて積み上げてきたものを見せる良い機会とモチベーションもあがり、新作の完成に向けて昨年冬から本格的に取り掛かった。同窓生と共に作品展に取り組んだのは7、8年前の小皿展以来ではないだろうか。今回は28名が参加し、土、釉、炎という素材に依り、それぞれ時代の空気を孕んだ今

様九谷が多様な表情を見せ、一堂に会した。

来場者からは、従来の九谷焼のイメージを超えていて見ごたえがあったと感想をいただいた。

デザイン支援事業は、卒業後、師を持たず自己流で焼き物に取り組んできた私にとって、諸先生方に作品の可能性に別の視点からアドバイスいただき、グループ内で学びあうまたとない機会である。

このような手厚いシステムを展開しているのは、研修所の特色であり、展示作品の背後にあるこの物語りと繋がりが見える展示にできれば、また、共に取り組むことで生まれる新たな価値を表現できれば、数ある展覧会との差も出る。今回の経験を生かして、ともに知恵を出し合い、練り上げられた展示へと育てていく必要がまだまだある。

支援事業を通して、ひとつのアイデア、ひとつの作品の可能性が開かれ、練り上げられ、完成度の高いものに仕上げられて来たように。



## 「卒業後の私」

第22期生 北川 チカさん



私が九谷焼技術研修所に通って一番驚いたことは指導して下さる先生方が惜しげなく自分の技を生徒たちに教えている事です。ちょっとしたアドバイス、こ

うした方がいいよと、そこに至るまでその先生は何年も努力してやっと身に付けた事を惜しげ無く教えているのです。その事をよりよく理解できたのは卒業し、一人でやるようになってからです。

私は卒業後、実家の東京に帰らず、一年間祖母のいる加賀に住み問屋さんで上絵のバイトをさせてもらいながら、制作をはじめました。模索の日々でしたが、年明けの東京での個展を自分の課題とすることで、視野が定まり前に進むことができました。

その年の夏に多治見の青木良太氏が企画するイケヤン☆（若手の陶芸家が集まって交流を深める催し）に参加したのがキッカケでイケヤン☆展の新人メンバーに参加できるようになりました。

さらに、そこで出会った益子の方達が主催する「陶イズム」からも声がかかり、少しずつですが展示させてもらえる場が増えるようになりました。

初めてのことが多かったので研修所の先生方や、デザイン支援事業でのアドバイスが自分の課題となり次への目標になっています。

そして今は、焼物を通し多くの人に出会え繋がっていること、それと今の自分でいさせてくれる家族にとっても感謝しています。



## トピックス・昨年に引きつづき九谷茶碗まつり（寺井本会場）に参加して

### 「つづけることが大事！」

第17期生 河村 澄香さん

<参加メンバー>

久手川利之さん 鈴木 晶子さん  
田辺 京子さん 林 大輔さん

第103回九谷茶碗祭り会場から



今回参加して感じたのは昨年同様、実行委員の方々はもちろん出席者全員が自分たちのまつりは自分たちで盛り上げようという意識でまつりが成り立っているという事でした。

ふり返ると、準備から片付けまでの約一週間は登旗の設置や駐車場整備、期間中のゴミの収集、まつり終了後の町の早朝清掃など早朝から夜遅くなるまで各出店者全員が一丸となっていました。自分のモノを作っただけではない、いろいろな大変さを感じました。

その反面、昨年OB会のお店に来て下さったお客様が今年も私たちOB会のお店を探して下さり「今年も楽しみにしてたよ」と声をかけられたりして嬉しい事もありました。

まつりの参加によって生まれるつながりを大切に、更に作っていく為にも自分の力をしっかりつけるのはもちろんですが続けて参加する事も大切なのではないかと感じました。

来年も素敵なつながりを作れるように日々励みたいと思います。

# 九谷焼産地・企業は研修所に期待しています

## 【花坂陶石の現状と課題】

石川県九谷窯元工業協同組合  
理事長 宮吉 勝茂さん

文化八年に本田貞吉が花坂で陶石を発見して以来、今日までアザラ山を中心に採石してまいりました。本山の量的に一番豊富にあった部分をほぼ掘りつくし、現在は、木和田といわれる部分の採石にかかっているところです。

本年は国や県、小松市、能美市、加賀市、金沢市から合計一千万円の補助金を頂き、ボーリングを木和田山3本、五国寺正連寺の山で2本、新花坂の山で1本実施し、埋蔵量と品質調査を7月から10月にかけて

やっているところです。この調査の結果次第ですが、今後の方針が大方定まるものと期待しております。原材料の確保は産地としての根本問題でありますので、迅速かつ慎重に進めていく所存です。



見込みとしては、木和田山に数千トン、五国寺正連寺の山に二万トン、新花坂に四十万トンと言われております。現段階では、木和田山の石のみが粘土屋さんで使用の用途が立っているだけで、あとの二ヶ所はこれからの課題となっている状況です。粘土の価格も上げざるを得ないと考えられますし、原石山の維持管理に対する協力金も粘土1本につき百円程度お願いしなければならぬと考えています。何卒よろしくお祈いします。



現在の木和田山

## 【色絵の技術】

九谷東山窯 三代 吉崎 東山さん

小稿の依頼を受けた際に参考にと手渡された3号を読んでいて印象に残った鈴木秀昭さんの一文があった。曰く、自身の最高を目指す純粋な制作を貫く覚悟を持ちたいと。その決意やよしである。思えば料亭を経営していた頃、九谷でまた使いたくなかったのは塔次郎や三代八十吉といった自己主張の強い器たちだった。器と料理の相乗効果が楽しかったものだ。私自身、学生時代の夏休み帰省時に祖父から色絵の手ほどきを受けたのが最初の絵付け体験だった。長いブランクはあったが、訳あって再び絵筆を持つようになって早や十余年、思いのままに自己流を貫き通しての試行錯誤の日々が続いている。

さて当社はこの春縁あって卒業生を二人迎えることができた。なかなか自己主張の強いお嬢さんたちで、



しかもへたくそである。私も下手なので文句は言えない。逆説的かも知れないが純粋に自己主張する為に必要なのは本当は謙虚さではないかと思うことがある。自身がいかにかへたくそかということを実感し必死に努力をして技術は獲得できる。流暢に色絵の言葉が話せてはじめて能弁にも寡黙にも作品を語らせることができるのである。

長い不振が続く業界ではあるが作品が売れないのは不景気のせいばかりではあるまい。へたくそだからである。当社も努力あるのみ。二人には大いに期待している。頑張れへたくそ!!

## 【共に繋げる】

(有)藤田美山 社長 藤田 努さん

まず私も妻も、そして遡ると母も研修所実習科の卒業生です。弊社は先代以来、主に上絵付けを中心としたものづくりをしてきておりましたが、日々の見慣れた業務以外の伝統的な加飾技術を著名な先生方から学ばせて頂き、貴重な経験ができたことをうれしく思っています。

また研修所卒業生については、先代がほぼ素人同然で始めた本窯のスタッフとして、そして従来から続いていた上絵付けのスタッフとして、これまで10名ほどが在籍し、現在も2名が日々頑張ってくれており、非常に心強く感じています。



単純に九谷焼の製造業として私が必要だと感ずる人材は、現在在籍している2名のように研修所で学んだ専門的な製造技術、知識を活用する即戦力としての人材と、現在業界でも問題視されています職人の後継者不足を補うべく長い期間、会社の礎となれる人材です。なかなか後者のように留まる方はいないことが現実ではありますが、現在の産業的な九谷焼を継承させていく上でも人材の確保、育成は必要不可欠だと思っています。できれば研修所で学んできた個の力・技・知識を活かし、会社というフィールドで共に成長、継続していけるような環境を築いていければ良いなと考えています。

## 研修所からのご案内・企画の紹介

### その1 自立支援工房全体及び共同工房内 ギャラリーの「愛称」が決定しました

自立支援工房全体：支援工房九谷  
共同工房内ギャラリー：Gallery いろどり 彩



### その2 「Gallery 彩」での企画展示会を募集中

時 期：陶芸村まつり及び茶碗まつり期間中  
含む前後2～3週間

場 所：Gallery 彩

費 用：800円×日数、DM費用など

応募期限：

- ・11月陶芸村まつり分  
H23年8月末
- ・5月茶碗まつり分  
H24年1月末



今年の茶碗祭りのときは研修所第11期生14人によるグループ展が開催され、県内はもとより、北は岩手県南は滋賀県と参加者は多方面にわたりました。久々に旧交を温めたようです。

### その3 ホームページ リニューアルオープン!!

6月1日に研修所のホームページが、装いも新たにリニューアルしました。是非 ご覧ください。

<http://www.pref.ishikawa.jp/kutanike/>

ホームページ内の「展示会情報」では、皆様の個展等の開催情報を掲載しています。DMなどを届けていただきましたら、ご紹介いたします。

#### 【お願い】 ホームページやブログを開設している方へ

研修所のホームページへのリンクを貼って、研修所の知名度UPにご協力をお願いします。リンクを貼る際には、研修所までご一報を！ホームページ内に用意してある研修所バナーもご利用ください。

### 【編集後記】

関係の皆様のご協力のもと、第4号を予定どおり発行できました。今回は、第3号にもまして写真を多用し、視覚的に分かりやすく心がけました。色調を前回までより、明るいトーンに変更しました。

### その4 陶芸村まつり出店者の募集!

(11月3日～11月6日)

毎年、陶芸村まつりに合わせ、自立支援工房中庭のスペースに、現役生、卒業生・OBが出店・出品し、まつりの賑わいに一役買っています。

今年も、積極的に参加いただき販売されることを期待します。希望の方は、早めに工房管理室まで。(TEL 0761-57-3340)

### ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 海外報告 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

#### 『ナンシー祭り』に参加して

第9期生 鈴木 晶子さん 第18期生 山下 紫布さん

5月30日～6月5日まで、金沢市の姉妹都市であるナンシー市において『ナンシー祭り』が開催されました。その目的はナンシー市民に日本文化を紹介する

ものであり、そのイベントの一環として「伝統工芸を紹介」して欲しいとの打診がありました。その趣旨にのっとり、加賀友禅から一人、加賀象嵌から一人、九谷焼から二人の計四人が参加することになりました。

この祭りを企画し実行したのは主にエコール・デ・ミンヌの7人の学生さん達であり、それにナンシー市の国際交流課や現地の学校 (ARTEM) の教師または個人などの多くの支援が加わりました。助成金としては笹川日仏財団の援助がありました。

祭りの10日前くらいにナンシーでは国際見本市が開催され、九谷焼は飛ぶように売れ、「日本ブーム」だとのことでした。私達は2日間だけの実演販売だったので、その一部しか体感することはできませんでしたが、確かに興味を持って接して下さるナンシー市民の方が多かった様に思います。

この機会を利用して、パリにある和雑貨店やナンシーのギャラリーに九谷の若手作家の資料を配布してきました。まだまだクリアしなければならない問題は山積みで、どの様な展開になるかも分かりませんが、新しい九谷焼を現地に広め、今後の活動の第一歩になればと考えています。

#### 「研修所通信NO.4」

発行：平成23年8月

編集：石川県立九谷焼技術研修所

能美市泉台町南2番地

TEL 0761-57-3340

FAX 0761-57-3342

<http://www.pref.ishikawa.jp/kutanike/>

印刷：鶴川印刷株式会社

